

南牧村花卉生産組合花情報(平成28年6月)

「なんもくの花」

群馬県南西部の山間の地「南牧村」では、平均年齢74歳の16名が50種類を超える宿根草や花木などの切り花を生産し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。

(写真は7月出荷の主力品種“リシマキア・エリザベス”です。)

『リシマキア・エリザベス』

平成23年に「なんもくの花」に仲間入りした“リシマキア・エリザベス”は、年々生産が増え、今年は10名ほどが栽培、わずか5年で主力品種に成長しました。白く小さい清楚な花で花持ちが良いのが特徴です。7月上旬から8月上旬に出荷される“リシマキア・エリザベス”にご期待ください。 【リシマキア・エリザベス】→



『エリンジューム』

メタリックブルーの花色と「カサカサ」「トゲトゲ」した花が特徴的な“エリンジューム”。生産量は多くありませんが、“ブルーベル”という大輪でボリュームのある立派なエリンジュームを栽培しています。7月にしか出荷されない貴重な“エリンジューム”をよろしくお願いたします。 【エリンジューム“ブルーベル”】→



『現地検討会兼栽培説明会開催』

毎年恒例の現地検討会を、今年も5月と6月に開催しました。6月の現地検討会は「なんもくの花」の新たな担い手を探すために栽培説明会を兼ねて開催、1名だけですが村外から参加してくれました。山間の地の担い手を探すのは大変ですが、将来の「なんもくの花」を考え、担い手探しは続きます。 【現地検討会(栽培説明会)】→

